

インド仏心寺通信

第15号

発行日 平成27年9月10日
発行 インド仏心寺を支援する会事務局
豊岡市中央町5-35 来迎寺内
<http://www.busshinji.in>

文殊菩薩普薩奉納開眼法要(報告)

八月二十五日、地藏盆も終わりひと息つくまもなく関西空港に着いた。午前十時三十分、正面ゲートより大きな梱包の箱が二つ、カートに乗って到着。文殊菩薩だ。



その後続くように、ツアー参加者も集合する。そして、文殊様と一緒にチェックイン!

全員が手続きを完了し、近くの喫茶店で簡単ですが結団式を。今回の参加者最少は小学六年生の星史ちゃん、最高齢者は、九十歳の小西さん。小西さんは、前田先生

の開く京都三条教室の生徒さんです。

そして、目玉商品は旅行社サライさんの保井君だ。彼は、二十歳・新人・研修中・初添乗!。すでに、集合時点で右往左往している。福田氏の顔が一瞬曇りました!
今回は、香港経由のツアー行きエアラインデザイン。何事もなければ良いのですが。



近代的なロビーが出現したが、建物を一歩出



た先は、蒸し暑さがまとわりつく、いつものインドでした。

十時間半をかけた、デリーに到着。動く歩道を乗り継ぎ、下りエスカレーターに乗ってびっくりに。大きく綺麗なロビーが出現した。だが、建物を一歩出



近くのホテルで、五時間程の就寝をとり、早朝デリー空港に向けて出発。空港で、モーニングコーヒーを一杯。以前は、滑走路を隔てて国際線と国内線の建物があった。今は一つの建物で左右に分かれているだけ。国内線を下りて、急いでバスに乗って国際線へ移動ということもなさそうです。



パトナ空港に到着すると、文殊様の梱包の箱が大きいので取り出しから出すことが出来ず、

コンテナのどこまでバスを横付けして、受け取りを行うことにならなかった。ツアーバスと文殊様のバスと二台でブツダガヤをめざし出発。途中、ナーランダ大学跡とラジギールを見学しての行程だが、仏師と私は、一足先に、仏心寺へ向かう。



七年ぶりの仏心寺。横の建物は気になるが、良く管理されて綺麗です。先に渡印していた清水良将師とスタッフが出迎えてくれる。みんなで、文殊様を本堂へと運び入れる。



何より心配なのが、損傷の有無。何とか無事のご様子。一安心だ。文殊様のセッティング。そして、ご本尊の光背の木地が日焼けの為に、日本より持参の塗料で塗装をする。そうこうしてうちに、ツアーバスが大塔に到着。仏師は急いで大塔に駆けつける。実は、今回のツアーは仏師の関係者が大多数を占めることとなり、仏師は参加者への気遣いかいも忘れられない。





開眼の前日は、初めての企画として駐在僧清水師が懇意にしているタイ・ブータン・日本の各寺へ参加者と共に参拝をして

いただいた。清水師のお陰で、各寺院共に温かく迎えて頂いた。ブータン寺では、両脇に祀られている仏様の説明をして頂いた。(ちなみに、お供えの水は、スプライトでした。) タイ寺では、缶バッジのお土産まで頂戴した。こんな近くで、有意義な時間を過ごさせて頂ける所があるとは大きな収穫であります。



参拝後、仏心寺の子供たちに折り紙を教えたいと参加者から申し出があり、子供たちも特別に午後残ってくれました。子供たちと一緒に蝉や紙飛行機を作ったり飛ばしたりの楽しい時間を過ごして頂いた。



八月二十八日午前十時、文殊菩薩の開眼式法要を厳修。宿坊より本堂までは、子供たちが花びらを散華。その中を、タイ・ブータンの坊さんと共に本堂へ入る。本堂では、日本から持参の薄い紙製の華を散華。導師(前田仏師の御尊父)の無言参拝。写仏・勧募帳の奉納。文殊菩薩の入魂。など約一時間程の法要を終了した。



本堂には、窓はなく、出入口の扉は、

が唯一の換気箇所。夏の法要を想定していなかったのが大失敗。法要中、式衆の顔からは滝のような汗がポツリポツリ。背中には汗がひた走り。控え室に戻って、第一声が「暑かった。」でした。白衣はずっしり。色衣の色がほんのり、着いておりました。



筆・ノート・消しゴム等々)を手作りの布製の手提げ袋に入れ、一人一人渡して頂きました。



子供たちは、手にとつて中を見て満面の笑顔でした。そして、参加者も笑顔が一杯でした。文殊様の開眼を見とどけた一行は、子供たちやスタッフに見送られ、次の目的地ベナレスへとバスに乗り込みみブツダガヤを後にしました。

筆 編集者

この開眼法要に、和歌山・浄土院様、岐阜・圓通寺様、和歌山・永楽寺様、滋賀・法蔵寺様、和歌山浄土院参拝の皆様より金一封を頂戴致しましたことお礼申し上げます。また、現地子供たちに、手提げ袋を作ってくださいました大阪・谷村富美子様にお礼申し上げます。また、この勧募にご協力を賜りご賛同頂きました皆様方に心よりお礼申し上げます。

事務局一同